

第2回山内小児童いじめ防止委員会の報告

日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございます。

11月1日（水）に、青葉警察署、地域の皆様、主任児童委員、PTA、3年生以上のクラス代表、教職員が本校体育館に集まり、「第2回山内小児童いじめ防止委員会」を行いました。今回は、実際のいじめの場面を取り上げ、グループごとの話し合いを行いました。

第2回の話し合いについてご報告させていただきます。

【テーマ】 「あったかハート」でいじめ0（ゼロ）の山内小学校をつくろう

【参加者】 3年生以上クラス代表児童2名
青葉警察署 地域の皆様 主任児童委員 PTA 教職員

【内容】 「いじめの場面について考えよう」

【報告】

今回の話し合いは、「いじめの場面について考えよう」でした。事例をもとに、いじめにかかわる様々な立場（被害者、加害者、聴衆、傍観者）の気持ちを考えました。その上で、いじめをなくするにはどうしたらよいかをグループごとに考えました。



事例

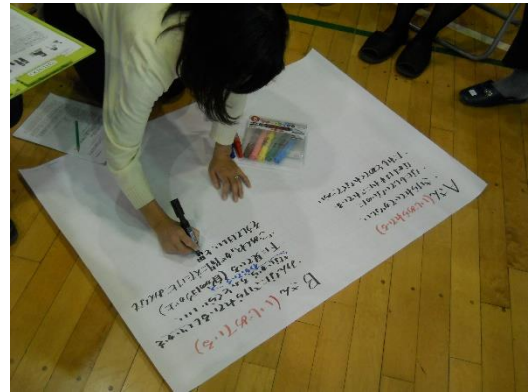
Aは無口でおとなしい性格でした。友達と話すのが苦手で、休み時間は読書をしながら一人で過ごしていました。学年当初から、あまり話さないからといって、どちらかと言えばみんなからはさけられていました。

ある日の休み時間、教室で読書をしていたAが立ち上がろうとしたら、Bの机に体が当たりました。Aは小さい声でしたが「ごめんね。」と言いました。Bは、「何ぶつかってんのよ。」と言って、Aがぶつかった場所を手ではらいました。その様子を見ていたCやDが「Bちゃん、かわいそう。」と口々に言いました。BはCのそばに行き、Aを見ながらひそひそと何かを話しています。

教室にはその他にも十人以上の人がいて、そのやりとりを見ていました。

各グループの話し合いから

- Aを下に見ていたり、Bを上に見ていたりする見方や人間関係がなくなっていくといい。
- 止められる人、正しいことを言ってあげられる人がいるといい。
- 人にはいろいろな人がいる。違いを理解することが大事である。
- 困ったときは先生や友達に相談する。
- 友達に対して優しい言い方ができるといい。
- 一人では言えないかもしれないが、誰かと複数なら止められる。そのために、正しいことを言える仲間を増やす。
- 「いじめは悪いことで許さないんだ。」という気持ちをもつ。
- Aの立場に立って考えることが大事。



参観された方々から

- 認め合える人を増やすことが大事。
- 自分と違う立場の人を認める。
- たくさんの人と触れあい、交じり合うことが大切。
- 本と触れあい、主人公の思いを読み取ることで、相手の気持ちを考える力がついてくる。
- 誰もBになることがある。その時に、注意してくれる人、言ってくれる人を大切にしてほしい。

【学校長より】

人の気持ちを考えることは難しいが、想像することはできる。想像力豊かな人はいじめをしない。今回話し合ったことは、是非クラスの中で紹介し広めていってほしい。

【参加者の感想】

- この会で話し合ったことを教室の友達にも伝えたいです。いじめは絶対にしてはいけないことを伝えて、楽しい学校生活をおくりたいです。次は、もっとくわしく話し合いたいです。(児童)
- 改めて、いじめはよくないと思いました。いじめをされている人の希望や、時には命までうばってしまいます。一人ひとりがそれぞれの人のちがいを頭におき、相手の立場に立って、本当にそれをしてよいのかを考えてから行動すれば、いじめは減るのではないかと思います。(児童)
- 今日の話合いでは、もともになる話がありとても考えやすかったです。立場が違う人たちの気持ちをみんなで考えることで、いじめられている人の不安や周りの人たちの心配、いろいろな人の気持ちが分かりました。今日の話合いをクラスのみannaにも伝えたいです。(児童)
- ケーススタディは、それぞれの気持ちになれるので子どもたちには分かりやすいと思います。こういう機会をたくさんもつことで、子どもたちが自分事として考えることができると思います。(参加者)
- 児童皆が事例を真剣にとらえ、しっかりと自分の意見を言っていて頼もしさを感じました。代表の児童が各クラスでこのことをよく伝え、全児童が思いを共有できたら、益々楽しい学校になると確信しました。(参加者)

